

【日本の大学】第98回—山梨大学：個人の尊厳重んじ、多様な価値観受け入れ

山梨大学は、日本の中心である東京の西隣りにある山梨県の県庁所在地甲府市に本部を置く国立大学である。1949年に設立された際には学芸学部と工学部の2学部体制だったが、2002年に山梨医科大学と統合して医学部が加わるなど、現在は教育学部、医学部、工学部、生命環境学部の4学部と医工農総合教育部（修士課程、博士課程）、教育学という二つの大学院を有する総合大学であり、約4700人の学生が学んでいる。キャンパスは2か所あり、大半の学部、大学院のある甲府キャンパス（甲府市武田）と、医学部関係が集まっている医学部キャンパス（中央市下河東）である。両キャンパスのある甲府盆地は東京都心や近隣県からのアクセスが良く、南には日本一の富士山が、西に南アルプス、北に八ヶ岳、東に奥秩父の山々を見渡せ、自然や季節の移ろいを身近に感じることができる土地である。メーンの甲府キャンパスは、JR甲府駅の北にある武田神社（戦国時代の名称、武田信玄公を祀っている）に向かう武田通り沿いにあり、歴史にも恵まれている。

大学憲章では「個人の尊厳を重んじ、真理の追究と学問の自由を大切にし、多様な文化や価値観を積極的に受け入れるとともに、社会の要求に応えつつ、広い知識と深い専門性を追求し、地域の中核となり、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人材を養成する場となることを表明する」としている。この憲章に基づいて大学では、「未来世代にも配慮した教育研究」「諸学の融合の推進」「世界的研究拠点の形成」「国際社会で活躍する人材の育成」「地域から世界へ成果の発信」「絶えざる改革の推進」などを進めるとしている。



満開の桜（武田通り）

教育は江戸昌平饗からの伝統

以下、山梨大学のホームページなどから、大学の歩みと現況を概観してみよう。

大学の沿革として最も古いのは、江戸時代後期の1795年にできた甲府学問所徴典館である。江戸幕府直轄の教学機関・施設であった昌平坂学問所（昌平饗）の分校として設立されたもので、明治時代に入って1873年に開智学校となり、翌74年に師範講習学校、その翌年に山梨県師範学校と改名した。その後も何度か名称が変わり、1943年に山梨師範学校（官立）となった。これとは別に、1921年には山梨県実業補習学校教員養成所が設立され、こちらは山梨県青年学校教員養成所などと名称を変えた。この二つの流れが、1949年に山梨大学が設立された際、学芸学部となった。

学芸学部が教育学部に改組されたのは、1966年である。教育学部は1998年に教育人間科学部へと改組されたが、2016年に再び、教育学部となっている。現在、教育学部は1課程6コースがある。学校教育課程の中に、幼小発達教育コース、言語教育コース、科学教育コース、生活社会教育コース、芸術身体教育コース、障害児教育コースで構成されており、子供の教育に対する情熱と豊かな人間性を持ち、教職・教科に関する専門的知識・技能を身につけた探究心溢れる人材を養成している。少人数グループワーク型の基幹授業群を軸とした手厚い指導体系プログラムを実施している。



キャンパス風景

工学部の淵源は1924年に設立された山梨高等工業学校である。第2次大戦中に山梨工業専門学校と名称変更し、山梨大学設立時に大学の工学部となった。発足した時は機械工学科、電気工学科、土木工学科、応用化学科の4学科だった。その後、新たな学科として、発酵生産学科（1957年）、精密工学科（1960年）、電子工学科（1961年）計算機科学科（1970年）、環境整備工学科（1974年）などが次々に加わった。大学院の工学研究科の修士課程は1965年に設置されている。

1989年には全学科を改組して4学科体制に、1998年には6学科体制に改組して循環システム工学科を設置するなど組織の見直しが続いた。2012年には7学科体制となり現在に至っている。7学科とは、機械工学科、電気電子工学科、コンピュータ理工学科、情報メカトロニクス工学科（2019年にメカトロニクス工学科に変更）、土木環境工学科、応用化学科、先端材料理工学科である。学部では、数学・物理などの工学基礎科目、コミュニケーション能力・英語能力養成科目やエンジニアリングデザイン能力などの科目を系統的・効果的に履修できる充実した教育体系によって社会的課題に実践的対応ができる優れたエンジニアの養成を目指している。

医学部は、1978年に山梨大学の構内に山梨医科大学として開学したのがスタートである。医科大学では、附属病院の設置（1983年）、大学院医学研究科博士課程の設置（1986年）、看護学科の設置（1995年）などが進められた後、2002年に山梨大学と統合し、医学部となった。2003年には大学院の医学系と工学系の研究科を廃止して、大学院医学工学総合研究部・教育部を設置した。2016年には大学院医工農学総合教育部（修士課程、生命医科学専攻、看護学専攻）を設置している。



看護学科教育研究棟（西側）

医学部ではその理念・目的として「深い人間愛と広い視野を持ち、医の倫理を身につけ、科学的根拠に基づいた医学的知識・技術を備え、地域医療や国際医療に貢献できる医療人や国際的に活躍できる優れた研究者を養成する教育・研究を行う」としている。

風土・地理に根差した先端研究

4番目の学部として2012年に誕生したのが生命環境学部である。学部は基本理念として「持続的な食料の生産と供給による地域社会の繁栄を実現するために必要となる、生命科学、食物生産・加工、環境・エネルギー、地域社会・企業経営・行政に関して広い視野を持つ人材を、自然と社会の共生科学に基づいて養成する」としており、理系・文系融合の学部となっている。学科としては、理系学科として、生命工学科、地域食物科学科、環境科学科の3学科、文系学科として地域社会システム学科1学科の計4学科である。生命工学科の中には、バイオ・メディカルサイエンス特別コースを含み、地域食物科学科には、ワイン科学特別コースを含んでいる。また、地域社会システム学科には、観光政策科学特別コースを含んでおり、学部の入学定員は155人となっている。



中央門の表記

大学では特色のある研究活動を進めており、水素エネルギー時代をけん引するクリーンエネルギーや燃料電池ナノ材料、山梨の文化・風土・地理的要因から育まれたブドウ・ワイン科学、世界トップレベルの発酵工学、先端脳科学など、幅広い分野の研究を産学官と協働

で実施している。大学の卒業生である大村智博士（北里大学特別栄誉教授）は土壌に生息する微生物を研究し、微生物の大規模な培養や有機化合物の特性評価を行う独自の手法を確立したとして 2015 年にノーベル医学・生理学賞を受賞している。



大村智記念学術館

国際化、国際交流に関しては、2014 年に設置された大学の国際化推進センターや教育国際室が担っている。国際化推進センター・グローバル推進課では外国人留学生のために、日本語教育や修学・生活上の指導・相談のほか、日本に就職したい外国人留学生の支援も行っている。国際交流協定は、中国、台湾、韓国、タイなど東南アジア、英米、ドイツなど欧米諸国など 69 の大学、学部間と締結している。外国人留学生は国費、政府派遣、私費留学などを含め、2023 年 5 月現在、235 人（うち女性 77 人）である。

学生数は、学部が 3788 人（うち女性 1228 人）、大学院は 925 人（うち女性 243 人）である。大学の教員数（常勤）は 502 人である。（2023 年 5 月現在）



第 14 回梨甲祭

現在の学長は中村和彦氏である。1982 年山梨大学教育学部卒、筑波大学大学院体育研究科修了、2011 年山梨大学教育学部教授、2015 年同教育学部長、大学院教育学研究科長、2021 年山梨大学理事（教学・国際交流担当）・副学長を経て、2023 年 5 月から現職。専門は教育学、発育発達学である。

日文：滝川 進

写真：山梨大学 HP & Facebook